

デジタルアニメに

「感謝の思い」込め

崇城大の学生が「大切な人に感謝の思いを伝える」ことをイメージして制作した映像が、熊本市中央区の鶴屋百貨店のショーウィンドーを華やかに彩っている。バレンタインデーの2月14日まで。



崇城大の学生が制作し、鶴屋百貨店のショーウィンドーを彩っている映像作品＝熊本市中央区

実写をベースにした約10分間のデジタルアニメ。芸術学部デザイン学科1～3年生の有志23人が約7カ月かけて授業で制作した。55台ディスプレイ3台を横に並べ、ワイドな演出となっている。

若い男女や学生、教師らのシルエットを赤一色で描き、それぞれの出会いや告白、感謝の思いを伝えるシーンなどが10話続く。幼い孫からの贈り物に高齢男性が喜び、ブレイクダンスを踊り出す場面もある。同大の学生や家族らにも協力してもらい、撮影した動きを画像処理してリアルな映像を作り上げた。

原案を考えた2年生の白石友梨花さん(20)は「人の思いが動くさまざまな瞬間を表現した。見た人の心が動き、何か行動を起こすきっかけになればうれしい」と話した。

(猿渡将樹)